



アルファベット22の詩篇集

詩篇119篇の編集構造の分析順

詩119とは... (2012年版)

2012.10.22

- ^{x21} H8104 + ^{x10} H5341 ^{y9} H8104
 命令を守り 守らぬ。
- ・ 第5巻. 119はシナイ山. 120-134はシオン山. (2012.9.?)
- ・ 道. H870. 愛. H157. 主を愛し. 主の道に歩み... 創18:19, 申5:-11:, 26:-32: (8.29)
- ・ 申10:12. 主が守らぬから守らぬと何が! (9.?)
- ・ 十戒の形. 守らぬ. 憎む. 愛する. 命令を守り. としよる. (9.17)
- ・ 詩1+19=119... (13) 97 - (13) 103.104 = (15) 113 - (16) 127.128 (9.24)
はじり おのりps19 はじり おのりps19
- (14) 105 - (14) 111.112... = (17) 先 - (18) 義忘る.
- ・ ⑨.⑩) P/A. ⑪.⑫) + (7)) P (9.25)
- ・ ⑲.⑳), ㉑.㉒) 守らぬ. ヨシヤ. YDEY. (9.28, 9.26)
- ・ 成就. 主の祝福. 主の守り. (9.22)
- ・ 全体像. (10.19)

詩篇119篇のトラーの詩集、22段落の分析をしてやっとここまでできました。全体をまとめたページは声だけ別に録ってありますので、全体の流れにてについては、それを聞いてください。ずっと積み重ねてきた記録、今回の分の記録はこの順番で見れば良いかなということで、後ろのほうに何月何日と書いてある何個もあるホワイトボード9月28日版とか9月25日版（アダム、ノア）を見てくださというように書かれています。

全体としては、第5巻の119篇はシナイ山、都上りはシオンの山、命令を守りなさいという119篇と守られるというシオンの山です。守られる場所に住んでシャロームの祝福が与えられる都上り。その命令を守るということば、ヘブル語のストロング番号H8104とH5341を合わせると命令を守ることは、31回119篇に出てきます。

^{x21} H8104 + ^{x10} H5341 命令を守り
^{x9} H8104 守らる
 5巻 119はシナイ山 120-134はシオン山 (2012.9.7)
 道 H1870 愛 H1157 主を愛し 主の道に歩み... 創18:19, 申5:-11:, 26:-32: (8.29)
 申10:12 主が求めおられることば何だ! (9.7)

その守る、守られる、命令を守りますというのは、どこから来ているのかというと全半の特にこのあたりです。主の道、道というキーワードがこちらに固まっています。そして、13からの後半に愛するというキーワードが固まっています。

主の道に歩み主を愛するということは、創世記18章のアブラハムのところ、申命記5章から11章のシナイ山で与えられた約束のところ、そして、これからカナンに入っていくという26章から32章のところ。そこに、主の道に歩み、主を愛しということが書いてありますけれど、特に申命記10章12節に主が求めておられることは何かということが言われています。それは、9月7日あたりのホワイトボードを見ると、そのことがよくわかるでしょう。「主が求めておられることは、主を恐れ主の道に歩み、主を愛して主に仕え、心を尽くして思いを尽くして命令を守りなさい」ということを命じられている申命記10章12節。その中の要約した2つで構成されているでしょう。

主の道に歩み 仕える (主を敬ぶ) 憎む 愛する 命令を守り としよ愛み (9.17)

仕えるということばは（主に仕えるというその仕えるは）、しもべというのがその名詞です。特に憎む、愛する、命令を守る、仕えるというのは、十戒の第2番目の命令によく出ているところです。119篇は第2戒、都上りは安息日を守るシャロームの祝福ということで第4戒というのが強調されていると思います。

詩1+19 = 119... (13) 97 - (13) 103, 104 = (15) 113 - (16) 127, 128 (9.24)
 (14) 105 - (14) 111, 112... = (17) 先 - (18) 義忘善永

詩篇の1篇と19篇に似ているこのトラーの詩篇と言われるものですが、1+19は119というふうに覚えると覚えやすいでしょう。構造分析したときに22個あるので、4で割り切れなくて困ってました。最初やっていた時は、4個、真ん中に6つあってまた4段落というふうに分析していたのですが、13と14を独立させて見るようにと指示されているのではないかというのが9月24日の分析です。13段落目の始めと終わりが15、16を囲んでいる。14の始めと終わりが17と18を構成しているというようにここに書いてあります。主を愛して...19篇の終わりのところは、19篇の中のみことばは、蜜のように甘いというところの言い方がこの2行です。2節ずつ終わりにきていますので、始

に住みますよという王座と神殿、契約の御座と主の家という2つの大きな流れがここに構成されているものだと思います。

- ・ 成就. ヨハネ福音書. ヨハネの手紙. (9.22)
- ・ 全体像. (10.19)

このトラーの詩篇の成就はどこにはっきりと現れているのかを考えてキーワードを見ると、(もちろんローマとかも思い出しますが) ヨハネ福音書に特に現れている。父と子の会話であるヨハネ福音書12章から17章の弟子たち、子どもたちに愛を余すところなく伝えたそのヨハネ福音書とヨハネの手紙に、命令を守ること愛することが強調されているというのは9月22日のものを見てください。

ということで、全体が主のみことばに対する私たちの応答というペンテコステ、シナイ山の祝福が全体の構造においてもあらわれている。御霊の祝福が豊かに与えられているというのが119篇だということがわかると思います。